

# 由美子 イレイ- ギョクチェの内なる宇宙

由美子 イレイ-ギョクチェ展 / 東京 アリメリカン センター

赤津 侃  
美術評論家

由美子イレイ- ギョクチェは、コラグラフ プリントとその構成で、感性と体験の交差する磁場を創り出す。その磁場は共鳴する渦であり、抽象の爆発する中心である。イメージの震動は拡がり、観る者をして音楽の波のように貫く。イレイ- ギョクチェの内に潜在する燦然たる炎は、彼岸の世界を後にして、彼岸の中へ内なる宇宙を建設する。地球の内部を凝視した世界とも受け取れるが、それは流動的で、攪拌される運動体として捉えられ、根源的な、エネルギーの形象化である。そこには彼女の生活体験による理性、感性的な状況をも示される。滞米三十数年、彼我の文化観の差異も感じ取れよう。焦点から発する光源は、事実性と象徴性の次元を壮大な振幅のまま結合する。

イレイ- ギョクチェのイメージは、らせん状に増殖しながら上昇する。宇宙論的な象徴性すら帯びており、一人の人間の時間が、流れではなく、時間の厚みとして表現される。流動的で並列される時間ではなく、集積され、凝結されて具体化した彼女の時間なのだ。その内なる宇宙の秩序と無秩序のなかで、形態と色彩がせめぎ合い、作品に両者の緊張関係が閉じ込められている。必然的に多義性を生きつつあるイレイ- ギョクチェは、紙を使用した芸術の一分野である版画作品を通して、彼女の内なる宇宙の提示を成し遂げる。